

SDGsに関する北東アジア・マルチステークホルダー・フォーラム2021： CSOセッション

COVID-19からより良い復興を遂げるとともに、2030アジェンダの完全な実施を進める
(目標4,5,14,15および17に焦点)

2021年10月22日（金）14:00-18:30（日本時間）

背景

持続可能な開発目標（SDGs）に関する北東アジア・マルチステークホルダー・フォーラムは、2022年に開催される第9回国連持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム（APFSD）の準備プロセスの一環であり、それ自体が2022年の国連持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）に向けた地域協議の一つであり、SDGs実施に関するサブ地域の視点を共有する独特な機会を提供しています。

サブ地域のすべての国は、2021年までに第1回目または第2回目の自発的国別レビュー（VNR）を提出済み、または提出を予定しています。それぞれの提出年は、中国（2016年および2021年）、朝鮮民主主義人民共和国（2021年）、日本（2017年および2021年）、モンゴル（2019年）、大韓民国（2016年）、ロシア連邦（2020年）です。2030アジェンダの実施における進捗状況やアプローチは国によって異なりますが、共通して求められるのは、国内における国家主体・非国家主体間の広範なパートナーシップや、国を超えたパートナーシップが効果的に運用されることです。

2022年のHLPFのテーマである「COVID-19からの復興と2030アジェンダの完全実施の推進」や、詳細なレビューが必要とされている目標（目標4、5、14、15、17）を考慮して、2021年持続可能な開発目標に関する北東アジア・マルチステークホルダー・フォーラム（NEA SDGsフォーラム）では、パンデミックから復興し、2030アジェンダの完全実施を進めるための経験と教訓の共有に焦点を当てます。



NEA SDGsフォーラムに対応するCSOセッションでは、北東アジアの市民社会組織（CSO）が2022年のHLPFのアジェンダについての話題や声を共有し、サブ地域や地域レベルにおいて国連に提出する集合的な声を準備する場を提供するために組織されています。

目的

1. 2021年10月28日～29日に開催されるNEA SDGsアジアフォーラムと2022年3月に開催されるAPFSD・APPFSDに向けた北東アジアのCSOによるポジションペーパーを作成すること。
2. ステークホルダー・エンゲージメント・ガバナンス、教育、ジェンダー平等、海中・陸上の生物多様性保全といったテーマにおける市民社会の課題や現場での経験を共有すること。
3. 公共の価値を共有する他のステークホルダーを含む北東アジアのCSOの協力方法について議論すること。

概要

- ◆ 日時：2021年10月22日（金）14:00-18:30（日本時間）
- ◆ 方法：Zoomを用いたオンライン会議（URLは登録者に送付されます）
- ◆ 使用言語：英語（通訳なし）
- ◆ 参加登録：<https://forms.gle/zRgZ9Wmpg8crwwrdA>
- ◆ 締切：2021年10月20日（水）
- ◆ 主催者：アジア太平洋市民社会参画メカニズム（APRCM）東・北東アジアサブ地域グループ（ENE sub regional group）

プログラム

14:00 - 14:30 (30分)	開会セッション <ul style="list-style-type: none">• 開会挨拶：ネリヤ・ラヒモワ（Nelya Rakhimova）、ロシア持続可能な発展のための連合 / CSDR• ビデオ上映：「開発の正義への道」• NEA SDGsプラットフォームとCSOセッションの紹介：デニス・ユン（Denise K.H. Yoon）、AP-RCM東・北東アジアサブ地域フォーカルポイント <p>地球規模のSDGsフォローアップ・プロセスと市民社会のエンゲージメント・メカニズムについて、新規参加者の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none">• 北東アジアユース声明
----------------------------	---

14:30 - 15:40	<p>セッション1</p> <p>(70分)</p> <p>国内地域レベル、国レベル、サブ地域レベルでのCSOエンゲージメント・メカニズムのレビュー</p> <p>このセッションでは、SDGs実施におけるCSOエンゲージメントについて、5つの国の進捗状況を共有し、サブ地域のSDGsフォーラムをどのように活用するかを議論することを目的とし、情報共有を行います。発表内容は、データなどのエビデンスや具体的な事例に基づいて、以下の1つまたはいくつかのポイントを含むものとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国内地域レベルを含むSDGs実施のための国のガバナンスシステムの状況と北東アジアサブ地域フォーラムとの関連性 • SDGsの進捗状況をフォローアップするためのマルチステークホルダー・エンゲージメントの法制度上の状況 • SDGsの政策立案への市民社会による参加の形態 • マルチステークホルダー・エンゲージメントの仕組みを構築・運営する上での課題と問題点 • アドボカシー戦略とツール（例：HLPFへの韓国CSO年次報告書） • 国内地域レベル、国レベル、サブ地域レベルへの政策提言 <p>モデレーター：堀内葵（JANIC）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本：稲場雅紀、グローバルヘルスに関する日本CSOネットワーク • 韓国：デニス・ユン、韓国SDGsネットワーク • モンゴル：バヤルサイハーン・ナムスレー（Bayarsaikhan Namsrai）、Step Without Borders、ウランチョージ・ゴンブスルン（Urantsooj Gombosuren）、モンゴル人権・開発センター（CHRD）議長 • ロシア：ネリヤ・ラヒモワ（NelyaRakhimova）、ロシア持続可能な発展のための連合（CSDR） <p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> • 若者：マンタエハタン・ツェヴェグミド（Mandkhaikhatan Tsevegmid）、若者政策監視NGO • 障害者：ハンビョル・チェ（Hanbyeol CHOI）、韓国障害者フォーラム <p>フロアディスカッション</p>
15:40 - 15:50	<p>休憩</p> <p>(10分)</p>

15:50 - 16:55	セッション2：質の高い教育の推進と女性のエンパワーメント
(65分)	<p>本セッションでは「質の高い教育」と「ジェンダー平等」の分野において、COVID-19パンデミックやデジタル・ディバイドに直面している現場の課題と解決策を共有します。発表内容は、データなどのエビデンスや具体的な事例に基づいて、以下の1つまたはいくつかのポイントを含むものとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育におけるデジタル・ディバイドの現状（ジェンダー、収入、障害を持つ人々）、持続可能な開発に関する教育（4.7）、障害を持つ人、先住民、脆弱な状況にある子どもの教育へのアクセス（4.5, 4.a） • 現状に至る主要な理由 • 解決のための事例紹介、成功例と失敗例 • 実施上の課題 • 政策提言 <p>モデレーター：ウラントウージ・ゴンボスレン（Urantsooj Gombosuren）、モンゴル人権・開発センター（CHRD）議長</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本： <ul style="list-style-type: none"> 目標4 中村絵乃、DEAR（開発教育協会） 事務局長 目標5 草野洋美、ジョイセフ アドボカシーコンサルタント • 韓国： <ul style="list-style-type: none"> ウーン・チェ（Woong CHOI）、韓国学校ソーシャルワーカー協会 会長 • モンゴル： <ul style="list-style-type: none"> 目標4 トウングラグ・ドンドグドゥラム（Tungalag Dondogdulam）モンゴルCSO連合「すべての人に教育を」 コーディネーター 目標5 エンジャルガル・ダワスルン（Enkhjargal Davaasuren）、MONFEMNET コーディネーター • ロシア： <ul style="list-style-type: none"> 目標4 アリーナ・ロギノワ（Arina Loginova）、SDSNユースロシア 目標5 ユリア・オストロフスカヤ（Julia Ostrovskaya）、社会・労働権センター <p>質疑応答</p>

16:55 - 18:00	<p>セッション3：自然資源の持続可能な管理と修復の強化</p> <p>(65分)</p> <p>本セッションでは、気候変動、生物多様性の減少、汚染の蔓延などの観点から、海洋保護区や持続可能な土地管理を中心に、現場の課題と解決策を共有します。発表内容は、データなどのエビデンスや具体的な事例に基づいて、以下の1つまたはいくつかのポイントを含むものとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大気・水・土壌の汚染状況、生物多様性、保護地域、森林・河川・農地・沿岸域の持続可能な管理など。 • 現状に至る主要な理由 • 解決のための事例紹介、成功例と失敗例 • 実施上の課題 • 政策提言 <p>モデレーター：関根白圭、Climate Youth Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本：宮本育昌、コーラルネットワーク • 韓国：ジ・ウクチョル（Ji Uk-cheol）、KFEM理事長 • モンゴル：ツェツェグデリ・アリディ（Tsetsegdari Arildii）、モンゴル環境CSO協議会 • ロシア：アナトリー・レーベデフ（Anatoly Lebedev）、BROC（ウラジオストク） <p>質疑応答</p>
18:00 - 18:30	<p>閉会セッション</p> <p>(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> • NEA SDGsフォーラムに向けた戦略化 • CSO声明の原則に関する議論とドラフトチームの紹介

(以上)